

主の御復活 おめでとうございます

2019.4.21



「エマオの晩餐」 カラヴァッジオ作 (1601)

一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。

ルカ 24・30



発行 徳田教会
(広報委員会)
No. 329
練馬区豊玉中1-39-1
TEL (3991) 2101
FAX (3948) 3228

御復活祭号
主な内容

- ・連載第5回
「読み直す聖書と生活」
- ・猪熊神父様銀祝
- ・西武地区キリスト教教会
連合一致礼拝報告

三月に起きたことに
想いを馳せて！

じよにー！おくら

今年の復活祭は四月二日。巻頭言を書いたのが三月初旬なので、三月に起きた心に残る三つの出来事を書きました。私が受洗した神田教会の近くにYMC Aアジア青少年センターがあります。一九九一年二月八日、韓国YMCAで朝鮮の留学生たちが日本の植民地支配からの独立宣言を発しました。この行動が朝鮮の三・一独立運動の嚆矢^{コウシ}となったのです。今年^{コウシ}は三・一独立運動の一〇〇周年にあたります。

一九六五年に日韓基本条約が締結され日本と韓国との国交が樹立しました。この条約をめぐって最近、従軍慰安婦問題、徴用工訴訟問題などが起き日韓の間で大きな溝が生じています。

一九六七年十一月マニラで開かれたJOCのリーダートレーニングに、私は日本から二名の女子リーダーと一緒に参加

しました。帰国前に韓国JOCから招待され、夜間外出禁止令のソウルに初めて行きました。韓国JOCの指導司祭の朴成鐘（パク・ソンジョン）神父様が通訳してくれました。会長のユン・スザンナさんの案内でタプコル公園（パゴタ公園）に行き、ここが一九一九年三月一日の独立運動発祥の地だと知りました。公園の奥に独立運動の様子を描いた十枚のレリーフが建っていました。「朝鮮のジャンヌ・ダルク」と呼ばれた柳寛順（ユ・グアンスン）を先頭にデモする民衆を描いたレリーフは中の七枚目です。彼女の両親は日本の憲兵隊によって殺され、柳寛順は逮捕されました。彼女は拷問によって一六歳の若さで獄死しました。

この公園で宗教指導者たちによって独立宣言書が読まれ、数万人の民衆がソウル市内を「独立万歳」と叫んで行進したのです。この動きは朝鮮半島全土に波及し、二百万以上の人たちが独立運動に参加しました。弾圧する日本の官憲によって沢山の人が殺害され、四万数千人が逮捕・拘禁されました。

独立宣言書は格調高く「わたしたちは、わたしたちの国である朝鮮国が独立国であること、また朝鮮人が自由な民であることを宣言する。このことを世界の人がびとに伝え、人類が平等であるということの大切さを明らかにし、後々までこのことを教え、民族が自分たちで自分たちのことを決めていくという当たり前の権利を持ち続けようとする。わたしたちは、このことを宣言し、このころを一つにして、これから永遠に続いていくであろう、わたしたち民族の自由な発展のために、そのことを訴える。（中略）」日韓両民族の深い溝に関して「これまでの間違った政治をやめ、正しい理解と心の触れ合いに基づいた、新しい友好の関係を作り出していくことが、わたしたちと彼らとの不幸な関係をなくし、幸せをつかむ近道であるということ、はつきりと認めなければならぬ。（中略）」「ああ、いま目の前には、新たな世界が開かれようとしている。武力をもって人びとを抑えつける時代はもう終わりである。過去のすべての歴史のなかで、磨かれ、大切にすべ

精神は、まさに希望の光として、人類の歴史を照らすことになる。新しい春が世界にめぐってきたのであり、すべてのものがよみがえるのである。（中略）わたしたちは、ただひたすら前に見える光に向かって、進むだけでよいのである。」と結ばれています。（外村大訳）

独立宣言書は日本に対する非難・断罪のためではなく、植民地主義の克服、人類普遍の理想実現への招きの言葉です。

この独立宣言の精神が、長年にわたる韓国の民主化運動と百年後の「ろうそく革命」に繋がっているのだと思います。

日本にとって三月一日は三・一ビキニデーとして設けられた原水爆禁止運動の日です。一九五四年三月一日未明、米国は太平洋ビキニ環礁において広島型原爆の約一〇〇〇倍の威力をもつ水爆実験を行い、マーシャル諸島の人びとや多数の日本漁船が被ばくしました。「第五福龍丸」は、「死の灰」を浴び、二三人乗組員全員が急性放射能症になり、久保山愛吉さん（四〇歳）は「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい。」と言いつ

し同年九月に亡くなりました。ビキニ被ばく事件は、日本国民に大きな衝撃をあたえ、ヒロシマ・ナガサキの被ばくをくりかえさせるなど、全国に原水爆禁止の声が巻き起りました。三千数百万の原水爆禁止署名が集められ、一九五五年八月に第一回原水爆禁止世界大会が開催されました。なお、「第五福龍丸」は現在潮見教会の近くにある夢の島公園に都立第五福龍丸展示館に永久展示されています。

今年の三・一ビキニデーは「核兵器禁止条約を力に、核兵器のない世界、非核平和の日本の実現を」をスローガンに行われました。

二〇一七年に核兵器禁止条約は国連において一二ヶ国の賛成多数で採択されました。しかし被ばく国日本は反対票を投じたのです。二〇一九年二月現在七〇の国が署名、その内二二ヶ国が批准しています。条約は五〇ヶ国が批准して九〇日後に発効します。今秋、批准国であるバチカンからフランシスコ教皇が来日され、長崎で「核兵器禁止条約」の重要性をアピールされることが期待されています。

す。核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）が二〇一七年度のノーベル平和賞を受賞したことは皆さんご存知だと思います。受賞理由は核兵器の使用がもたらす破滅的な人道上の結末への注目を集め、核兵器を条約によって禁止するための革新的な努力をしてきたこと」です。核兵器禁止条約に「ヒバクシャ」という言葉が記され、核被害者の権利が明記されたことは、被ばく者たちの長年にわたる勇気ある取り組みの成果です。広島で被ばくしたサロー節子さんは「核兵器は必要ではなく、絶対悪です。」と語っています。

被ばく者は日本人だけではありません。朝鮮から日本で働くことを余儀なくされた人たち、米軍の捕虜も被ばくしました。また、世界中で二〇〇〇回以上行われてきた核実験や、チェルノブイリや福島原発事故で被害を受けてきた人たちも、広い意味で「グローバル・ヒバクシャ」です。ビキニデーはこのことを世界中に訴える原点の日です。

二〇一一年三月一日を忘れる人はい

ないでしょう。すでに八年が過ぎました。家族を失い、家も畑も仕事も無くなった被災者たちの苦しみ悲しみは今も続いています。未だに死者約一万六千人、行方不明者約二千五百人、避難者約七万七千人にのぼっています。福島原発事故の放射能被災はまだ続いています。

民意を無視して辺野古の海への土砂投入。宮古島に自衛隊ミサイル基地完成、等々。

これらは三月に起きたほんの一部の出来事です。いま日本で起きている出来事に目を向け、私たちの国が、何処に向かつて進んでいるのか知るために、徳田教会で今年の信者総会で採択されたメインテーマ「イエスに学んで、人々と共に歩もう」を実行しましょう。具体的課題については、「樺・三三八号」をごらんください。さあ！復活祭を迎えたいま、新しい心で、行動を起こしましょう。



連載「読み直す聖書と生活」

(5) 神の愛の力を信じる

— 人格的な神に (続) —

白百合女子大学学長・徳田教会信徒

田畑 邦治

ご復活祭おめでとうございます。

キリストの死にあずかる洗礼を受けた私たちが、キリストの復活にもあずかることができよう。(参照ロマ6・4・5)

人間を結びつける神の力

前回この欄で、「天地の主である父よ」というイエスの祈りの言葉を、神の人格性という観点から読み直してみました。その際、前々号で紹介したティヤール・ド・シャルダン神父が、第二次世界大戦のさなかに書いた手紙の一節を紹介しました。

……奇妙なことには、争いがいたるところで激化していますが、紛争の根

源に一步一步さかのぼってゆくと、悪の根源は外観的な紛争の中にはなく、一見してそれからひじょうに離れたところに、すなわち、人間が神の人格性に絶望したという内的な事実のうちにあることに気づくのです。

(ティヤール・ド・シャルダン著、宇佐見英治・見田稔訳『旅の手紙』1923〜1955) ティヤール・ド・シャルダン著作集4、みすず書房、1970年、312・313頁)

そして、最後に私は次のように書きました。

「第二次世界大戦を生んだ悪の根源が、人間が神の人格性に絶望したことにあるとは、いったいどういうことでしょうか。……ティヤール神父は、それは、究極的な存在が「人格的な愛」そのものであり、私たちを一つに結び合わせることができるということを経験することができないでいるからだ、と考えていたのです。」

いまここで「人格とは何か」という大きな問題に触れることは力不足で出来ませんが、ティヤール神父の短い言葉に、ヒントがあるような気がします。つまり、究極的な存在(神)が、人間に対して無関心な存在でなく、愛そのものであり、それゆえ、私たち人間を一つに結び合わせるができる、と信じることに。この信仰が欠けると、人間同士は結合・調和への努力を諦め、恐怖による支配や暴力による道に落ち込んでいくだろう、と。

いま引用したティヤール神父の「結び合わせるができる」という、その「できる」という言葉こそ、聖書では、神の力、イエスの力、聖霊の力、と言われている「力」のことです。しかし、戦争責任者だけではなく、私たちのだれもが、そういう「力」の存在を忘却し、諦めてしまう誘惑にさらされています。

聖書と神の力を信じる

いまちょうど私たちは復活祭を祝っていますから、この「力」のテーマを復活

の理解と結びつけて考えてみたいと思います。

パウロは、私たちの信仰の父であるアブラハムについて教えるとき、その「信仰」について、「死者に命を与え、存在していないものを呼び出して存在させる神を、アブラハムは信じ、……希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じ、……神は約束したことを実現させる力も、お持ちの方だと、確信していた」(ロマ4・17・18、21)と力強く述べています。パウロはこうして、いまキリストの復活を信じることの意味をアブラハムの信仰と結びつけて説明するのです。

命を与え、存在を付与する、ということとは究極の「力」ですが、現代の文明に影響された私たちは、命も存在も、人間の力によって始まったもののよう錯覚しています。そこからは、信仰や宗教をあなだること、そして、人間によるおぞましい暴虐にまでいたることは目に見えています。

イエスは、復活についての問答の中で、

復活はない、と考えていたサドカイ派の人々を、厳しく批判しています。

「あなたたちは聖書も神の力も知らないから、そんな思い違いをしているのではないか。死者の中から復活するときには、めとる事も嫁ぐこともなく、天使のようになるのだ。死者が復活することについては、モーセの書の「柴」の個所で、神がモーセにどう言われたか、読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。あなたたちは大変な思い違いをしている。」(マルコ12・24・27)

ここで、イエスが「聖書」と「神の力」を並べておられることが印象的です。聖書全体、とりわけモーセの書を中心にした太祖の物語は、ひとり一人の命における神の人格的な愛の力を証しするものであり、それは取り消すことのできないも

のだ、と教えているようです。

弱さを恐れない

ところで、神の力の発現は、この世の権力者のそれとはまったく異なり、謙りや弱さを通して為されることを、私たちはいつも学んでいます。

「わたしたちの聞いたことを、誰が信じてようか。主は御腕の力を誰に示されたことがあるか。……(彼は)苦役を課せられて、かがみ込み、彼は口を開かなかつた。屠り場に引かれる子羊のように、毛を切る者の前に物を言わない羊のように、彼は口を開かなかつた。」(イザヤ53・1、7)

「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」(IIコリント12・9)

しかし、この弱さこそは私たちにとって最大の試練であり、誘惑になりうるも

のです。イエスご自身、受難を前にして、「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この（受難の）杯をわたしから取りのけてください」（マルコ14・36）と祈られたのでした。また、パウロは、サタンから自分に与えられたとげについて「離れ去らせてくださるように、わたしは三度主に願いました」（IIコリント12・7・8）と書いています。結果は、イエスの場合もパウロの場合も、弱さ、受難、とげは取り去られことはなかったのです。

けれども、受難に耐え抜く「力」、弱さの中に働く「恵み」が、働いて、人々に救いをもたらすこととなったのです。

私たちにも毎日の生活のなかで、信仰を脅かすような多くの弱さとそれに伴う恐れがありますが、その最たるものが「死」です。「死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあった者たち」（参照ヘブライ2・14・15）とあるとおりです。しかし、イエスが救うのはこのような者たちです。「それで、イエスは、神の御前に

おいて憐み深い、忠実な大祭司となつて、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならなければならなかったのです。事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人々を助けることがおできになるのです。」（同2・17・18）

このキリストの愛という神の最も優れた人格的な愛、犠牲の愛が、私たちの福音であり、それは、あらゆる恐れや弱さに打ち勝つてあまりあるものです。

「しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によつて輝かしい勝利を収めています。私は確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主イエス・キリストによつて示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」（ロマ8・37・39）

「猪熊神父様 銀祝
おめでとうございます。」

青山日出子

猪熊神父様とはほとんどお話をした事のない私が「このお祝辞を書く？もつとふさわしい方が。」と依頼者に提案したのは当然のことです。神父様、僭越でごめんなさい。

猪熊神父様のお説教は難しい福音の所でもとても解りやすく、聞く者が皆、自分の心の中を知っていらつしやるのでは、そしてひとり一人に語り、論してくださっているのではないかしら、そんな気持ちにさせてくださいます。前もって許可を得られているという登場人物も大倉神父様やご家族、信者の誰かさんであり、それは聖書の中の遙か二千年前の人々やその暮しと重なるのです。

三月三日、徳田教会は神父様の銀祝のお祝い会で賑わいました。冷たい雨の日でしたが、ミサに与った方は、皆ホールに集り昼食を共にしました。マリア会メンバー

の発案で、「お祝いの気持ちを表したい」と作った、お赤飯と白米の小さなおにぎりの盛り合わせを、猪熊神父様がお褒め下さり、一同ちよつとハナタカになりました。

神父様が徳田教会にいられて早六年、司祭館が見違える様に綺麗になったことも感謝申し上げます。私も片付け魔です。から今度「かたづけ隊」を組織しましょうか？

二月の「教区ニュース」に「信者養成講座」を受講の方が、「猪熊神父様から参加



する心構えについて厳しいお話があり、身が引き締まる思いだった。」と感想を述べられておられました。神父様の受講者の方々は立派なカテキスタになれるだろうなあと私は思っています。大倉神父様を生活面でお支え下さる猪熊神父様に感謝しつつ、「御手柔らかに」とお願い申し上げます。

感謝のうちに「司祭のための祈り」をお捧げいたします。



西武地区キリスト教 教会連合一致礼拝報告

若月通子

二月十七日(日) 浄風教会にて、西武地区キリスト教教会連合である五つの教会(日本キリスト合同教会桜台教会・日本聖公会練馬聖ガブリエル教会・日本基督教団江古田教会・日本基督教団浄風教会・カトリック徳田教会)による一致礼拝が行われ、徳田教会から二十六人が参加、司祭・牧師を含め六十五人が心をひとつにし共に礼拝を捧げた。今回お

説教をされたのは
浄風教会
の滝口宣
牧師。『散
る散る満
ちる』と
題された
説教は、
長年主夫





口先生は何を出したら勝てるか綿密な計算をしたが即負けてしまった。二連覇したのは無欲な二歳の少女。本日読まれた聖書の箇所はヨハネによる福音書十八章十八節〜二十三節、そしてその前の箇所は【子どもを祝福する】と題された箇所であった。『なるほど』と締めくくられたお説教はユーモア溢れ、分かりやすく、聖書のことが日常に即した話であった。礼拝後、付属の浄風幼稚園で行われた茶話会には、礼拝出席者のほぼ全員が参加された。各教会の紹介の後、二つの主な報告がなされた。一つは江古田教会牧師の上林先生の隠退である。長年に渡り

業をされていく滝口先生の買い物中の一コマの話から始まった。スーパード高級蒲鉾やステーキ肉をかけたジャンケン大会で、滝

この西武地区キリスト教教会連合にもご尽力いただいた上林先生の隠退は寂しいことであるが、今後の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げたい。もう一つは練馬聖ガブリエル教会の統合である。現在小竹町にある【練馬聖ガブリエル教会】、板橋区徳丸にある【東京聖マルチン教会】、豊島区西池袋にある【池袋聖公会】がこの春から一つとなり、新しく生まれ変わる。間もなく新名称が決定し、活動がスタートするこの教会の更なる発展を祈りつつ、茶話会の時間はあつという間に過ぎ、名残惜しい気持ちを六月に繋げ閉会となった。

私事であるが、仕事等でプロテストの礼拝に参加する機会が大変多く、何の戸惑いも違和感も感じていない。しいて言えば、ふとすると主の祈りや使徒信条が口語と文語でごちゃ混ぜになるぐらいである。この道に導いてくださったことに深く感謝するとともに、時折神さまの思し召しを考えたりもする。未だにキリスト教一致について知らない人もいる。何かのきっかけがなければ互いに知り合い、

認め合うことは難しいことかもしれない。年二回の一致祈祷週間が一人でも多く一致への導きになればと願う。

最後に、心の奥に響いた、礼拝最後に歌われた讃美歌『ここに私はいます』を皆さんと分かち、以上報告とする。

一、ここに私はいます、ホームレスの眠る街。ここに私はいます、凍える子の涙にも。あなたは？

二、ここに私はいます、仕事さがす列の中。共に私はいます、変革よぶ人々。あなたは？

三、共に食卓かこみ、パンを分かち群れの中。共に私はいます、みことばに生きる人と。あなたは？

帰天

永遠の安息をお祈りいたします

マリア 小島 ちえ子様 2月26日

編集後記

「教会委員会報告」と「典礼と行事」は次号に掲載いたします。

(広報)